

音楽科学習指導案

- I 題材** みんなで合わせよう
教材 パフ 芙龍明子 作詞 ピーター ヤーロウ・レナード リプロン 作曲
浦田健次郎 編曲 ハ長調 4分の4拍子

II 考察

1 題材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

楽器の音や旋律が重なる響きのよさや美しさを味わい、進んで音を合わせて演奏する態度

①知識・技能

楽器の音や旋律の重なる響きと音の重なりとの関わりについて理解し、きれいに音を合わせて演奏するための技能

②思考力・判断力・表現力等

聴き取ったり感じ取ったりして音や音楽を捉え、きれいに音を重ねて演奏することについての思いや意図をもち、音楽表現を工夫する力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(2) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。
(ア)楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
(ウ)互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
〔共通事項〕(要素)拍、音の重なり

(3) 本題材や教材の価値

本題材では、拍を意識して、互いの音や副次的な旋律を聴きながら、複数の楽器できれいに音を合わせて演奏する学習をする。その価値は、以下のとおりである。

お互いの音や全体の響きを聴きながら演奏することは、音を合わせて演奏する上で大切なことである。自分の音だけでなく、友達の音を聴きながら演奏することが、自分の音と全体を調和させて演奏することにつながっていく。3年生も終盤になり、演奏技能が身に付いてきていることから、自分だけでなく、一緒に演奏している友達の旋律や音色も意識できるようゆとりも出てきている。きれいに音を重ねて演奏したいという思いや意図をもって追求していくことで、拍を意識することや、互いの音や旋律を聴きながら演奏するときれいに音を重ねられることを理解し、互いの音や旋律の重なる響きを聴きながら演奏する力を身に付けることができる。

パフは、リコーダー①、リコーダー②、鉄琴、キーボードの全部で4つの旋律で構成された曲である。4拍子で拍が取りやすく、前半8小節と後半8小節の旋律が似ていることから、短い時間で技能の習熟をはかることができ、試しながら工夫する時間を多くとることができる。楽器によって旋律のリズムが異なるため、他の楽器の旋律と拍を合わせて演奏する必要感が生まれ、手拍子で拍を取ったり、低音や主旋律に合わせて演奏したりするなど、きれいに合わせるための方法を考え、試奏を繰り返すことができる。その中で、技能を高めるとともに、合奏において大切な、自分の音と全体の音が重なり合う響きのよさや美しさを味わったり、互いの音や全体の響きを聴くことの重要性に気付いたりすることができ、互いの音や全体の響きを聴きながら演奏することの素地を養うことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「いろいろな音色の違いを感じ取って」で、楽器の音色の特徴に気付き音色の違いを感じ取りながら想像豊かに聴いたり、いろいろな打楽器の音の重なりを工夫して表現したりする学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、3年「旋律の特徴を感じて」において、旋律の特徴（重なり？）から生まれる曲想を感じ取りながら曲を聴いたり、曲想に合わせて、拍を意識しながらリコーダー、木琴、鍵盤ハーモニカの旋律を合わせて演奏してきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- (1) 曲想と音色との関わりを理解し、曲想に合った音色で拍を意識しながら音を合わせて演奏してきている。このような子どもたちが、楽器の音や旋律の重なる響きと音の重なりとの関わりを理解し、互いの楽器の音や旋律を聴きながら、拍を意識して演奏することができるように、拍打ちに合わせて階名唱や楽器での練習をした後、グループや学級全体で友達の音を聴きながら演奏する活動を設定する。
- (2) 楽しい曲想を表したいという思いや意図をもち、拍を意識して、それぞれの楽器や旋律に合った音色を工夫しながら音を合わせて演奏してきている。このような子どもたちが、「きれいに音を合わせて演奏したい」という思いや意図をもち、拍を意識して、友達と音を合わせて演奏する方法を試しながら工夫できるように、ペア・少人数・全員と人数を増やしながら、音を合わせて演奏する方法を考える活動を設定する。
- (3) リコーダーや木琴の音色に関心をもち、音を合わせて楽しく演奏してきている。このような子どもたちが、複数の旋律をきれいに重ねる合奏に関心をもち、友達と音を合わせて演奏することに楽しく取り組めるように、お互いに向き合い、音の重なりを聴き合いながら、音を合わせて演奏する活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 4つの旋律を合わせてきれいな響きで演奏するための方法を、少人数で試奏しながら考えることを通して、きれいに重ねて演奏したいという思いや意図に合った演奏を工夫することができる。
- 2 準備 拡大譜 学習プリント 模造紙
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくはリコーダー①だから、リコーダー②と鉄琴とキーボードの人と組んで演奏するのだな。 ・最初はきれいにそろっていたけれど、リコーダーの旋律が変わるところからずれてしまったな。拍を意識して演奏するときれいな響きになるのではないかな。 <p>2 少人数できれいに音を合わせる方法を試しながら工夫して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1段目と3段目はなんとか合うのだけれど、2段目と4段目は演奏するところがずれてしまって、響きがきれいではなかったな。 ・それぞれの旋律が違うから、ずれていってしまうのかな。友達の手拍子に合わせて、演奏してみたらどうだろうか。 ・手拍子に合わせてたら、ずれていた2段目の旋律が合って、きれいな響きになったよ。拍を意識して演奏するといいいのだな。 ・全員で合わせるときに手拍子はできないな。友達のグループは、立って足踏みをしながらか演奏したり、キーボードの音を聴きながら演奏したりしていたよ。ぼくたちも、キーボードの音を聴きながら演奏してみよう。 ・キーボードの旋律を聴くと、きれいに音を合わせやすくなったし、グループの全員で演奏できたな。拍を意識したり、友達の音を聴くと、きれいな響きで演奏できるようになるのだな。 <p>3. 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで見つけた方法を使えば全員でも音を合わせられそうだな。次は、全員できれいな響きで演奏してみたいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4種類の楽器の音を合わせて演奏できるように、前時に選んだ担当する楽器を基に、4種類の楽器が入ったグループを伝える。 ○きれいに音を重ねて演奏するための方法を友達と考えながら練習するという本時の見通しをもてるように、自分の選んだ楽器でそれぞれの旋律を演奏し、目指す音楽表現に近付けるために必要なことを問いかける。 ○音を合わせて演奏する方法を考えるきっかけとなるように、きれいな響きで演奏できたところと、にごった響きになったところを問いかける。 ○きれいに音を合わせる方法を考え、試しながらグループで演奏できるように、難しいと感じたところを中心に、それぞれの旋律を楽譜で確認したり拍を意識したりしながら演奏するよう促す。 ○自分たちで考えた工夫をグループの中で評価できるように、工夫した後にきれいな響きになったかどうか、またどうするとよかったか確認し合うよう促す。 ○他のグループが考えた工夫も試しながら、音を合わせて演奏できるように、考えた工夫を発表し合う時間を設定し、よいと思った工夫を取り入れて練習するよう伝える。 <div data-bbox="767 1384 1401 1630" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p>楽器の音や旋律の重なる響きを聴いて、拍を意識したり低音の旋律に合わせてたり演奏の仕方を試しながら、工夫して演奏している。</p> <p style="text-align: right;"><表現・発言②></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○音を合わせて演奏するための工夫を振り返ることができるように、グループで考えた工夫とよさを自分のプリントに記述するよう促す。 ○全員できれいに音を合わせて演奏したいという次時への意欲をもてるように、本時で考えた音を合わせるための工夫を振り返りながら、全員で音を合わせて演奏するよう促す。

IV 指導と評価の計画（全6時間）

目標	互いの楽器の音や副次的な旋律が重なる音の響きを聴きながら、きれいに音を合わせて演奏する。				
評価 規準	① 知識・技能) 楽器の音や旋律の重なる響きと音の重なりとの関わりを理解し、互いの楽器の音や旋律を聴きながら、拍を意識して演奏することができる。 ② 思考力・判断力・表現力等) きれいに楽器の音や旋律を重ねたいという思いや意図をもち、拍を意識して、友達と音を合わせて演奏する方法を試しながら工夫している。 ③ 学びに向かう力・人間性等) 楽器の音や旋律の重なる響きに関心をもち、友達と音を合わせて演奏する活動に楽しく取り組んでいる。				
教材	ア…パフ 芙龍明子作詞 ピーター ヤーロウ・レナード リプロン作曲 浦田健次郎編曲 ハ長調 4分の4拍子				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ ふかめる	1	ア	○「パフ」を歌ったり、範奏CDを聴いたりして『リコーダーと鉄琴とキーボードをきれいに重ねて演奏するためのひみつを見つけよう』という学習のめあてをつかむ。	○楽器の重なり方による、曲想の違いに気付けるように、リコーダー二重奏、合奏の比較鑑賞をする時間を設定する。	◇複数の楽器や旋律が重なる合奏に関心をもち、表したい合奏のイメージについて記述している。 <発言・記述②③>
	1		○リコーダー、鉄琴、キーボードの旋律を歌ったり、リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏したりする。	○正しい音程で演奏できるように、拍に合わせて階名唱をする時間を設定する。	◇各楽器の旋律の違いに気づき、リコーダーや鍵盤ハーモニカで、正しい音程で演奏している。 <表現①③>
	1		○リコーダー、鉄琴、キーボードの旋律を、各楽器で演奏する。	○リコーダーや鉄琴、キーボードがそれぞれ拍に合わせて演奏できるように、同じ楽器の中で演奏する人と、拍打ちをしながら階名唱をする人に分かれて演奏する活動を設定する。	◇リコーダーや鉄琴、キーボードで、拍に合わせて正しい音程で演奏している。 <表現①>
	1		○自分の担当する楽器を使い、少人数で音を合わせて演奏する。(本時)	○互いの楽器の音や旋律の響きを聴いて、演奏の仕方を試しながら工夫できるように、各楽器が入った少人数のグループを編成する。	◇楽器の音や旋律の重なる響きを聴いて、拍を意識したり低音の旋律に合わせてたり演奏の仕方を試しながら、工夫して演奏している。 <表現・記述①②>
	1		○全員で、拍を意識し、楽器の音や旋律の重なる響きを聴きながら、音を合わせて演奏する。	○全員でよりよい響きにするための方法を考え、音を合わせて演奏できるように、自分たちの演奏を録音したものを聴いて、演奏の仕方について話し合い、試奏する時間を設定する。	◇楽器の音や旋律の響きを聴きながら音を合わせて演奏する方法を考えて発言したり、演奏に生かしたりしている。 <表現・発言②>
まとめる	1		○互いの楽器の音や旋律の重なる響きを聴き合いながら、音を合わせて演奏し、きれいに音を重ねて演奏するためのひみつをまとめる。	○きれいに音を合わせて演奏するための方法を想起して合奏や記述ができるように、方法をまとめた模造紙や学習プリントを見返す時間を設定する。	◇拍を意識し、互いの音や副次的な旋律の重なる響きを聴きながら楽しく音を合わせて演奏し、きれいに音を合わせて演奏するための方法を記述している。 <表現①②③>